

## —肩ダーツの検討—

日本女子大家政 小口 登 ○星野匠美

目的 従来密着型被服原型をパソコンによって描くプログラムを研究してきたか、その主な手法は、人体のフィルムによるホテイツェル（殻）を切り開いて平面化し、それを幾何学的形状にモデル化してパソコンで描かせるものであった。その際の問題点の1つに肩先点の不一致があった。その原因を肩ダーツの決め方におき、本研究においては肩ダーツのプログラミングを試みた。

方法 次の二つの条件の舞台の前身頃において原型を描き密着服を作成し、試着して評価した。

条件1：前身頃においてバストポイントから肩先点、サイドネックポイントまでの距離を求め、肩線上の midpoint を共有する二つの三角形を考えた舞台。

条件2：肩線上で、肩線とダーツ線が垂直をなす点が存在する場合。

後身頃もこれに準ずる。

結果 体型に適合するか否かは肩傾斜の大小、肩線の形状、肩甲骨の突出程度によりそれぞれの適用条件が異なるので、写真によりこれを示す。